

イエスは 主なり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 115



## アシュラムの四つの恵み

マタイ18:19-20

大柴 俊和

私の日本アシュラムとの出会いは、もう30年にもなりますが、主に関東アシュラムを中心としたものでした。この長い期間に私はアシュラムから四つの大きな恵みに与ったので、この紙上で改めて書き記させて頂きたいと思います。

アシュラムの恵みの第一は、み言葉に聴く恵みです。私たちは朝毎に、夕毎にひたすらに主のみ言葉を聴きますが、この恵みに優るものは恐らく他にはないと思われます。パウロも「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである」(ロマ10・17)と、み言葉に聴くことの重要性を説いています。

アシュラムの集会は、この「み言葉に聴く」訓練の場であり、この訓練が信仰者の日々の生活に生かされることを使命としています。私は、アシュラムでこの基礎訓練を受けて、み言葉に聴く恵みに与ったことを心から感謝しています。

アシュラムの第二の恵みは、み言葉に従う恵みです。私たちは日々の信仰生活で、どのように生き、どのように行為しなければならぬか、祈っても祈っても分からず判断に苦しむことが多い。このような時に、主はみ言葉から、為すべきことと、行くべき道をさやかに示し教えて下さるのです。

アシュラムの第三の恵みは、主イエスとの生き生きとした会話の喜びです。日毎のアシュラムでみ言葉を聴いているうちに、主と共に語り、会話するようになる、この境地こそまさにアシュラムの恵みだと思えます。

アシジのフランチェスコが森の中で、夜主イエスと交わり、語り合っていると、森全体が燃えるように明るくなり、アシジの村人たちは夜明けが近いと錯覚したと伝えられていますが、このような親しい主との会話がアシュラムの恵みです。

アシュラムの第四の恵みは、主を信じる者たちとのお交わりの絶大なる喜びです。共にキリストを信じた者たちとのアシュラム毎のお交わりの豊かさ、喜びは実に素晴らしい副産物といってよいでしょう。すでに信仰の馳せ場を走り終り、天に召された友も多いのですが、私はなおアシュラムの度毎に主につらなるお交わりの豊かさを感じている者です。

この機会に日本アシュラムの指導者たちと、奉仕者たちの皆様に感謝すると共に、アシュラムの恵みと喜びに与る者が全国に続々と起ることを祈って止みません。

(関東アシュラム委員・ベテル聖書研究会委員長)



スタンレー  
ジョーンズ  
コーナー

### 父・母の思い出(ユニスマシユーズ)

121

この講演は第33回関東アシラムで収録したものです

〔母メイベルの創設した女教師養成学校は、父ジョーンズが牧師をしてきた教会のすぐ向かい側にありました。父と母はそこで知り合い、結婚しました。〕彼らは結婚後、少し北にあるシータポアに移りました。「シータ」は女神の名、ポアは町、つまり女神シータの町と云う名です。それは人口四万位の大きな町でした。そこで父は三つの地区の責任者、母は三つの男子生徒の学校の責任者となりました。その三つの中、二つは町の非キリスト教の生徒のための学校、他の一つは寄宿制で、町のクリスチャン生徒のための学校でした。その地の言語はウッドウ語で、ヒンズー語とは全く異なり、文字は右から左へと書きます。母はヒンズー語とウッドウ語の両方を同時に学ばねばなりませんでした。女性にもかなり有能な教

師がいましたが、彼らはつまり「女の子」に過ぎないものとして格別には扱われることはありませんでした。周りの人々は女性が男の生徒を教える可能性を全く認めていませんでした。母は物静かではあるが断固とした態度で、これを変えるように決心しました。彼女は小さな男の子には女性教師が必要であると感じたのです。

そこで或男子生徒がうまく行かない時に、母は熟練した女性教師である、教頭の妻を、家庭教師のような形でその男の子の訓練のために派遣し始めました。それがうまく行ったので、母は教頭の妻に、初学年のクラスを受け持つて呉れるように言いました。次の年には教頭の妻には二年生を、そして新しい女教師に一年生を担当させました。そのように、毎年女教師は担任の組と共に上級に進み、初年度の組には新しい女教師を入れました。

父兄たちはそれを見て狼狽しました。ことに、キリスト教徒でない女性が自分の息子を教えていることに不満を抱きました。しかし生徒たちは、すべての国家試験で全市の他の学校を凌いで首席の成績をとりました。父兄達は女性教師がそのように配置されたことに大きな不安を抱き、つぶやきましたが、同時に、男子生徒た

ちが非常に良い成績をあげていることも話題にしました。

他のキリスト教の学校も母の例に倣い始めました。今ではそれに就いては問題はありません。国中で行われていきますから、誰も異議はありません。そうしたことは一九一六年、一九二〇年ごろ迄のインドに於ける教育界の問題でした。その改革にメイベルは大きな貢献をしました。

母がどのようにして宣教師になることに興味をもったかということに就いて話します。彼女がアイオアの大学に在学していた頃、有名なインド婦人が大学を訪れました。母はその婦人の話を聞きに行きました。その婦人は、母に「あなたは何になりますか」と尋ねました。母は「教育に携わります。私は教えることが好きです」と答えました。インド婦人は母に挑戦して言いました。「インドに来て教えなさい。その必要がありません」と言いました。一九〇四年、彼女はバプテスト・エピスコパル教会の宣教師として受け入れられ、インドに送られました。そして彼女は四〇年間優れた宣教師としてインドに留まりました。

母メイベル・ロシングは今までのあり来たりの、小脇に聖書を抱え、椰子の木の下の土着民を教えているようなタイプの宣教師ではありません

でした。しかし、また人々のアイドルとされるようなところはありませんでした。イエス・キリストは弟子の居るところに居ました。彼女がよく引用した聖句はフィリピ三・一〇(今)でした。「私が彼を知り得ているように、私は彼を知らせよう。」

彼女は言葉による直接的伝道を信じたが、またそれ以上に間接的な伝道の方法をとりました。彼女は興味をそそるキリスト教の多くの本を家に揃えておいて、クリスチャンでない人々が訪ねて来て、喜んでそれらを読むようにしました。小さな町にいる宣教師として、彼女はあらゆる緊急事態に対処する必要がありました。

(次号へ続く)

アシラム生活最良の友

## アパ・ルーム

海老沢 宣道 編集

(年6回刊行の日々の糧)

国際的、超教派的、靈的な読物  
価300円、〒90円、年2,340円(〒共)

申込先 ☎256-0812 小田原市国府津3-11  
振替口座 00110-7-193834 アパ・ルーム  
電話番号 0465-48-2010

日本語版は創刊以来47年続行中

東京都目黒区中央町1-21-10

日本クリスチャン・アシラム連盟  
神文谷教会気付

〈四十年の恵み〉

## 日本アシラムの歩み(7)

海老澤宣道

### ◆訪問伝道の開始

アシラムと全国伝道に関して、見て来たが、スタンレー・ジョーンズ博士の御働きが、愈々最後の第十回目に入ろうとしている時、ジョーンズ伝道の古い資料を探して見ると、書き落した事があつたので、今回は、ま

ず先生が一九五一年第二回の全国の伝道をされた時訪伝の指導者マコネル博士を同伴、「訪伝はイエスの時代から行われていた。故に大



切なのは実行である。」と、この事に献身する信徒の決起を促され、ボランティア運動が各地に普及、その協力機関「訪問伝道全国連合会」は(最近改称して「こころの友伝道全国連合会」として、各教会の平信徒伝道に寄与している。もう一つのスタンレー師が教えて下さったアシラム祈禱生活運動は、これより四年後、一九五五年に第四回目の全国巡回をされた間に天城山荘で初めて開催されたのであった。

### ◆第十回は超教派伝道

六七年に第九回の全国伝道を実施されたあと、スタンレー師の要望に依じて、NCCによりアシラム退修会が第八回と第九回の二回開かれたことは前号に書いた通りである。

その後NCCは内部機構の改革と運営方針の変更から、アシラム委員会と訪問伝道委員会を同時に廃止することにした。それとは知らずに博士は69年秋に当時の幹事宛に日本の希望を問合せる手紙を送ってきた。訪伝は既に連合会を再組織して運動を展開していたが、アシラム祈禱生活の方はどうしたものかと、NCC内での委員長であった、黒田四郎師が考えていた所へ博士から手紙が来ている事を知らされた。これは大変と70年一月に旧委員を東駒形教会に召集、十余名が熱心に祈った結果、

今日の日本は先生をもう一度必要と示していることを示され、まず第十回ジョーンズ全国伝道の中央委員会を再編成するために、広くNCC外の福音諸派からも有志に加わって頂き、三月に青学会館で組織会(出席16名、早速、博士に來援を願うこと、委員長に高瀬恒徳、副に三雲豊造、福山猛、事務局長に海老澤宣道、財務に山根可弐、菅沼孝文その他の委員は各派教団に依頼すること、全国各地にも超教派の委員会を結成するよう要望した。その後、博士から明71年は南米各地を先にし、日本は一年延期したいとの返信に一同驚き、ぜひ明年秋に來日を乞う電報を打った所、夏になって「71年10、11月を日本に当てる」との快報あり、一同感謝して本格的準備に入った。

各地区では博士が希望する一般伝道会、学内伝道、訪伝者大会、アシラム退修会を開催するように願った。各地からの声は博士が高齢過ぎるとの心配であった。71年には87歳になられる。然し小生あての來信によれば「世を去る前に今一度日本の教会を助けたい。私はまだ日に何回でも集会で話す力を与えられていると言われていた。

### ◆第十回伝道のメッセージは

「震われない国と変らない人格」

(ハブル書12・28-13・8)

前期六名の役員以外に、中央委員として黒田、小原、岡田、満丸、立石、大久保、北村、森山、藤、石井、田辺、白根、設楽、吳允台、宮内、瀬江、原、大石、横山、鈴木(20名)が協力奉仕。

### ▼各地区の委員長は次の通り。

道南(白川) 旭川(樫木) 小樽

(大園) 札幌(中村) 津軽(大木) 八

戸(西堂) 盛岡(大住) 栃木(小池)

東北(高橋) 郡山(村上) 千葉(奥山)

静岡(渡辺) 浜松(卯尾) 名古屋(大江)

福井(谷田部) 関西(中路) 岡山

(長島) 広島(谷本) 今治(榎本) 松

山(宇都宮) 北九州(山本) 福岡(松

井) 宮崎(鶴谷) 鹿児島(沢田) 以上

24名が地区委員会の協力奉仕を指導

して下さった。愈々十月一日羽田空

港に到着、二日と三日は東京で二教

会の礼拝と淀橋での信徒大会(一千

名)、四日から九日まで北海道各地の

四教会と二学園と函館アシラムで

計(二六〇〇名) 10日から17日まで東

北四地区と二学園と東北アシラム

の出席合計四千三百名、17日から25

日まで関東地方と二学園し関東アシ

ラムの出席合計は四千五百名、26日か

ら31日まで中部地区の六教会二学園

と中部アシラムで出席計四千九百

名。11月2日から八日まで京阪神の

三教会、五学園と関西アシラムで

合計五千三十名。九日から13日まで

中国地方、三教会一学園と中国アシ

理事長 海老澤宣道  
 編集人 大石 嗣郎  
 発行人 一部 60円  
 定価 80円

ラムで合計二、二五〇名、14日から19日は四国地区三教会と一学園とアシラムで計二千名。21日から26日は九州地方、四教会一学園とアシラムで計千七百名。27日から30日は再び東京に戻り、東部、西部、中央の三公教会と三教会、一学園とで出席合計八千二百名。全口出席合計は三六四八〇名、決心者は東京三〇〇名、北海道五五八名、奥羽は二五〇名、東北では百名。関東では四百名。東海地方では五百名。関西では一三三〇名。中国地区で百名(未報告あり)、四国では二二〇名の他多数。九州では七九五名。東京で最後に一千九十名。決心者の総計は五六四三名の多数であった。

**信仰生活43年の私の証し**

第35回関東アシラム

「福音の時より」一四一

齋藤 剛毅

〔第一一四号よりの続き〕

私が教会でイエス・キリストを神のみ子と信じる大きなきつかけとなつたのは、説教を聞いていた時に、聖霊が突然私の心に注がれたことに大きな理由があります。ヨハネ16:8に「真理のみ霊がきたら、罪につき、義につき、裁きについて世の人の目を開くであろう」とありますが、私はそ

れ迄神さまに背を向けて、自分自身で、自分勝手に人生の夢を築き上げて、自分の人生計画を自分の努力だけで実現しようとして、神さまに背を向けていた、神さまのみ心を知らずに生きてきた、そして自分で勝手に命を断とうとしていた、その罪が聖霊によって示されたのです。このような私のために十字架について罪を背負ってくださったイエスさまの十字架の死を示された時、私は完全にイエスさまの前に申し訳なき一杯で、悔い改め、罪を告白して、一九五四年九月五日、四十三年前にバプテスマを受けました。

私は母にクリスチャンになった時に不幸を詫びたのですが、母は言いました。「剛ちゃん。お母さんは困った時には、神さまに助けてとは言わないのよ。本当に困難に直面した時が度々あつたけれど、いつも、その困難に打ち勝つ力を与えてくださいと神さまにお祈りするの。その困難に打ち勝つて行くために知恵が必要だから、私はその知恵を与えてくださいと祈るのよ」と。母の教訓は数々ありますけれども、私に一番大きな教訓を与えたのは母の祈りの姿と、困難に直面した時に力と知恵を求めるという母の祈りの姿勢であつたのである。

私は受験勉強をしながら、信仰の入つて以後、この地上に於ける私の使命が何かを教えてくださいと祈り始めたのです。祈り始めて約五カ月

過ぎた五十五年一月のこと、常盤台教会の夕礼拝に出席していた時、これは神さまの摂理的なお導きでしようが丁度座つていた席の目の前に、「スタンレー・ジョーンズ博士来る。天城山荘にて修養会開催される」という印刷物を見ました。今でも持つていますが、これは第一回のスタンレー・ジョーンズ師によるアシラムのプログラムです。古ぼけて茶色になっていきます。そのスタンレー・ジョーンズ博士による第一回アシラム全国大会のチラシが目の前にありました。それを見た時、私は何故か出席したくて仕様が無い思いに駆られました。無論受験は約一カ月後に迫ってきていますから、許されるはずはないのです。父に話しますと、「何を言うか。この大切な時に、天城山荘などに行くとは、とんでもない」という見幕ですから、母にお願いをして、父の許しをやつと得て、出席しました。

第一回のアシラムの写真がアシラム誌一〇三号に載せられています。その最前列の右から三番目、高校生の制服姿で写っているのが私です。その時のことに就いて、海老沢宣道先生が二〇号に書いておられます。「この集会は現代日本キリスト教史に於けるペンテコステとも言ふべき実に画期的な出来事であつた」と。それはまことに真実でした。

（次号へ続く）

三三三

▼S・ジョーンズ不朽の名著出版▲  
「震われない御国と変わらない人格」  
湖江淳一・湖江千代子共訳  
B6四九〇頁、予定価二、六〇〇円  
発売所 キリスト教新聞社  
発行所 日本クリスチャン・アシラム連盟(発売日五月初日)

○S・ジョーンズの晩年の信仰思想を自ら集約した不朽の名著、アシラムの精神、神学を知りたい方の必読の書。  
○申込先 連盟事務所 大石宛

★新刊特報★

海老沢宣道先生畢生の新著

「神」主イエスに続く第三部作

「聖霊に就ての黙想」

ペンテコステの時節必読の書

B6判一六〇頁 価一、四〇〇円

発行 白夢荘

発売 キリスト新聞社

海老沢宣道の新書

神に就いての黙想

B6判、150頁、価1,300円 円240円

神との生きた対話・交わりを願いつつ綴られた信仰の随想。老熟した著者が現代の教会に問題提起しつつ語りかけるメッセージ。

発売所 キリスト新聞社  
取次 日本クリスチャン・アシラム連盟